



## 大会の成果を東京のスポーツレガシーへ

# TOKYOスポーツレガシービジョンを策定しました

東京2020大会は、大会史上初の延期という困難を乗り越え、都民・国民をはじめ関係者の皆様の協力を得て、2021年夏に開催が実現されました。

大会を通じて、スポーツ施設の整備やバリアフリーの進展、スポーツ実施気運、パラスポーツへの関心の高まり、ボランティアの活躍など、多くのレガシーが芽生えています。

東京都では、大会の成果が実感される今、それを今後どうスポーツ振興に活かし、都市の中で根付かせていくか、その姿を示すため、この度「TOKYOスポーツレガシービジョン」をとりまとめました。都は、機を逃さず、大会で得た成果をスポーツフィールド東京の実現につなげていきます。

大会は国際オリンピック委員会（IOC）、国際パラリンピック委員会（IPC）と密接に連携し実現することができました。発表にあたり、両会長からコメントをいただきましたので、あわせてお知らせします。

### 記

#### ○ 概要

7つの点について、主な取組を記載。

- 1 都立スポーツ施設の戦略的活用
- 2 国際スポーツ大会の誘致・開催
- 3 スポーツの場を東京の至る所に拡大
- 4 パラスポーツの振興
- 5 東京のアスリートの活躍
- 6 ボランティア文化の定着
- 7 未来へのメッセージ



### TOKYOスポーツレガシービジョン

2022年1月21日

東京都



#### ○ URL

ビジョンデータはこちらからご覧いただけます。

【日本語】

[https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaiyunbi/torikumi/sports\\_legacy/index.html](https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaiyunbi/torikumi/sports_legacy/index.html)



【英語】

[https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/eng/taikaiyunbi/torikumi/sports\\_legacy/index.html](https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/eng/taikaiyunbi/torikumi/sports_legacy/index.html)



## ○ コメント

### 【国際オリンピック委員会（IOC）トーマス・バッハ会長】

東京2020オリンピック大会は、新型コロナの影響にもかかわらず、アスリートにとっても東京・日本の皆様、世界の人々にとって圧倒されるほどの大きな成功を収めました。大会はまた、開催都市である東京にとって、大きく必要とされるレガシーを創り出しました。東京におけるスポーツ参加の向上に寄与するものであります。

東京都が成し遂げたこの素晴らしい成果にお祝いを申し上げるとともに、都市におけるスポーツ活動を更に振興し、このレガシーを活用していく、都のビジョンを歓迎いたします。

Thomas Bach, President of the International Olympic Committee said:

“The Olympic Games Tokyo 2020 were an overwhelming success for the athletes and the local and international audiences, despite the coronavirus pandemic. The Games also created a much-needed legacy for their hosts, helping increase sports participation in Tokyo. We congratulate the Tokyo Metropolitan Government for this fantastic achievement and welcome its plan to build on this legacy by further promoting sports activity in the city.”

### 【国際パラリンピック委員会（IPC）アンドリュー・パーソンズ会長】

東京都が、東京2020大会のレガシーの実現にしっかり取り組んでいることは素晴らしいことです。

大会開催都市にとって、気運を逃さず取り組むことが極めて不可欠であり、都がパラスポーツの振興の取組はもとより、スポーツ施設が今後どのように活用され、東京が今後いかに国際スポーツ大会を誘致していくか、いかに都市の中でスポーツが実践されていくかも考慮しているのは喜ばしいことです。

重要なことは、東京は2021年に歴史的な大会を開催したことです。ボランティア文化や、社会変革をもたらすツールとしてのスポーツの活用は、今後も着実に継続されなければなりません。大会レガシーはすぐにできあがるものではありません。レガシーは長い時間をかけて実現されてゆくものであり、IPCは東京の取組に勇気づけられています。

Andrew Parsons, IPC President, said:

"It is fantastic to see that Tokyo Metropolitan Government is so committed to fulfilling the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic legacy.

When any city hosts the Games it is absolutely vital that they build on the momentum generated and it is wonderful to see that TMG is not just advancing the promotion of Paralympic sports, but looking at how sport facilities can continue to be used, how Tokyo can attract more international sport competitions and how sport can be practiced throughout the city. Importantly, Tokyo staged historic Games in 2021 and the culture of volunteering and use of sport as a tool to drive societal change must continue at pace. A Games legacy is not delivered immediately, a legacy comes to life over a long period of time and we are encouraged by TMG's plans."

○ 関連WEBサイト

【オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ】  
<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/>



【スポーツTOKYOインフォメーション】  
<https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/>



【SPOPITA (スポピタ)】  
<https://spopita.jp/>



【東京ボランティアレガシーネットワーク】  
<https://www.tokyo-vln.jp/>



【TOKYO障スポ・ナビ】  
<https://tokyo-shospo-navi.info/>



【TOKYO障スポ&サポート】  
<https://www.tokyo-ss.net/>



※本件は、「『未来の東京』戦略」を推進する事業です。  
戦略16 スポーツフィールド東京戦略「スポーツフィールド・TOKYO」プロジェクト

【問合せ先】

オリンピック・パラリンピック準備局総務部企画調整課

事業連携担当 長野・吉田

電話：03-5320-7898（都庁内線：38-640）

ファクシミリ：03-5388-1224

メール：S1050104 (at) section.metro.tokyo.jp

※迷惑メール対策のため、メールアドレスの表記を変更しております。お手数ですが、(at)を@に置き換えて御利用ください。

## TOKYO スポーツレガシービジョン 主なポイント

本ビジョンは、東京 2020 大会の成果を今後どうスポーツの振興に活かし、都市の中で根付かせていくか、その姿を示すためとりまとめたもの。大会で得た成果をスポーツフィールド東京の実現につなげていく。

### 1 都立スポーツ施設の戦略的活用(P3-14)

● 大会を契機にバージョンアップしたスポーツ施設を活用し、都民の皆様へ届ける価値を最大化

➤ 18 施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮

- ・発信力の強化（一体的なプロモーションなど）
- ・ニーズ対応力の強化（様々な規模の大会の開催など）
- ・一体的取組によるスポーツ振興（共通コンセプトによるイベントの開催など）

➤ 各施設を最大限活用するための 3 つの取組

- ・スポーツでの更なる活用
- ・多様な活用による新たな体験の提供
- ・周辺施設や地域との連携

➤ 各施設の特性を活かし、多様な活用を推進

- ・多様なスポーツ体験、ユニークベニュー、エンターテインメントなど

◆ 新規恒久施設では数多くの大会等を予定（P13-14）

◆ 有明アーバンスポーツパーク（仮称）（P6）

大会のレガシーを活かし、都市型スポーツの場を整備

スケートボード、スポーツクライミング（ボルダリング）、  
3x3 バスケットボール



東京アクアティクスセンター



バリアフリー化の推進（東京体育館）



有明アーバンスポーツパーク（仮称）

### 2 国際スポーツ大会の誘致・開催(P15-16)

● 様々な国際スポーツ大会開催によるスポーツの賑わいを都市の活力へつなげる。

➤ 都立スポーツ施設の戦略的な活用により、規模の大小・多様な競技種目に対応する。

➤ 国内競技団体の取組もサポート。

パラスポーツについては、パラリンピック競技に限らず支援対象拡充

➤ ハイレベルな競技を観戦し子供や都民がスポーツの力に触れる場も提供

◆ 直近の国際大会の例

WMH マスターズホッケーワールドカップ 2022 東京 2022.10（大井ホッケー競技場等）

柔道グランドスラム東京大会 2022.12（東京体育館）

2023 年カヌー・アジア選手権 2023.10（海の森水上競技場、カヌー・スラロームセンター）



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

### 3 スポーツの場を東京の至る所に拡大(P17-18)

● 都民のスポーツ実施率は 39.2%（2007 年）→ 68.9%（2021 年）と大きく向上

● 機を逃さず、スポーツへの関心を、都民の「する・みる・支える」につなげる。

➤ スポーツの魅力拡大：アーバンスポーツ等が体験できるイベントやスポーツ月間等の  
キャンペーン

➤ 企業の参画促進や区市町村の取組への支援など、企業や地域との連携促進

➤ スポーツとの新たな接点を創出

オフィス街等でのプロモーション、DX も活用したイベント、  
地域と一体となった自転車のライドイベント・大会など



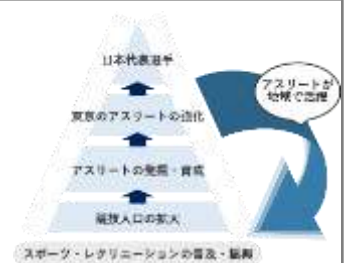
## 4 パラスポーツの振興(P19-22)

- 大会で脚光を浴びたパラスポーツ。障害の有無に関わらず共にスポーツを楽しみ、交流する取組を推進し、今後も**共生社会の実現**に貢献していく。
- 幅広い**パラスポーツの普及**のため、ボッチャ等を通じた交流イベント等の機会を充実していく。
- 大会を機にパラスポーツに興味を持った障害のある人に、**スポーツを始めるきっかけ**として身近な地域での体験機会を提供。健康・楽しみの面からも参加促進
- 施設のバリアフリー情報の発信、地域でのスポーツ・医療・教育部門の協働の後押しなど、場を確保し「**だれでも、どこでも、いつまでも**」を実現
- ◆ **東京都パラスポーツトレーニングセンター（仮称）**：2022年度末に開業予定。（P6）  
味の素スタジアム内の室内施設を改修  
パラスポーツの競技力向上の拠点、障害の有無に関わらずパラスポーツに親しむ場を創出



## 5 東京のアスリートの活躍(P23-24)

- 都が発掘・育成・強化した選手が大会に多数出場。メダリストも誕生  
東京 2020 大会メダリスト：オリンピック 9 名、パラリンピック 16 名
- 今後は競技力の向上とともに、**アスリートがその経験をもとに地域で活躍**し、スポーツの裾野を拡大する循環を創り出していく。
- 東京育ちのアスリートが、地域に応援され活躍することで、競技人口の拡大やスポーツの普及・振興につなげる。



## 6 ボランティア文化の定着(P25-26)

- 大会では応募者約 24 万人、1 年延期後も約 8.3 万人が参加（ロンドン・リオを上回る）
- 大多数が活動継続に意欲（シティキャストの 96%）
- 気運・経験と人材を将来に受け継ぎ、ボランティア文化の定着を図る。
- 「**東京ボランティアレガシーネットワーク**」や「**TOKYO 障スポ&サポート**」により、多彩な情報・活動フィールドを提供
- **スポーツ分野**の活動機会（大会周年行事や東京レガシーハーフマラソン）
- 学校で実施してきた**ボランティアマインド育成**の多彩な取組を継承
- 講演・ウェブ等により**経験やノウハウを発信・継承**



## 7 未来へのメッセージ(P27-28)

- 大会を彩ったメダルや表彰台、ムラール等に込められた**重要なメッセージをアーカイブ資産とともに未来に継承**
- 地域や学校、スポーツイベント等で競技用備品に触れる場を提供。**スポーツの振興につなげる。**
- 大会の記念品を展示や教育の場で活用し、**大会の精神を継承**
- ◆ **大会 1 周年記念行事**：2022 年 7 月～10 月  
多彩なスポーツイベント等の実施により、大会の感動を思い起すとともにスポーツの実施に結び付ける。
- ◆ **東京レガシーハーフマラソン**：毎年 10 月第三日曜に開催  
パラリンピックマラソンコースを活用。障害の有無に関わらず誰もが楽しんで走る場を創出  
2022 年の第 1 回大会は IOC と協力し、「セレブレーションマラソン」に位置付けて実施

